

授業名: 理学療法研究法(1/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4	
PT学科教員	一般	添田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	月 1~5 木 3~5 金 2	【授業形態・単位】	講義・演習 3	
【授業の概要】					【受講して得られる力】		
グループ学習・演習を通して臨床実習に必要な基礎知識および技能を修得する。専門基礎分野、基礎3科目(解剖学・生理学・運動学)の基礎学力向上を図る。					知識・理解 考え抜く力 チームで働く力		
【学習目標(到達目標)】							
①臨床実習に向けた基礎学力の充実を図る。 ②中間試験および期末試験にて70%以上の正答率を獲得する。							
【履修上の注意】		個人の知識に頼らず、記憶したことを他者に伝えることにより学習の理解を深める。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	解剖生理学—植物機能(1)		循環器系の解剖・生理を復習する				
2	解剖生理学—植物機能(2)		循環器系の解剖・生理を復習する				
3	解剖生理学—植物機能(3)		消化器系、泌尿器系の解剖・生理を復習する				
4	解剖生理学—植物機能(4)		消化器系、泌尿器系の解剖・生理を復習する				
5	解剖生理学—植物機能(5)		呼吸器系の解剖・生理を復習する				
6	解剖生理学—植物機能(6)		呼吸器系の解剖・生理を復習する				
7	解剖生理学—植物機能(7)		代謝、内分泌系、発生と組織の復習をする				
8	解剖生理学—植物機能(8)		代謝、内分泌系、発生と組織の復習をする				
9	解剖生理学—動物機能(1)		中枢神経の解剖・生理を復習する				
10	解剖生理学—動物機能(2)		中枢神経の解剖・生理を復習する				
11	解剖生理学—動物機能(3)		中枢神経の解剖・生理を復習する				
12	解剖生理学—動物機能(4)		末梢神経の解剖・生理を復習する				
13	解剖生理学—動物機能(5)		末梢神経の解剖・生理を復習する				
14	解剖生理学—動物機能(6)		骨格筋の構造・筋収縮の生理・反射を復習する				
15	解剖生理学—動物機能(7)		感覚受容器、感覚器の構造と機能、伝導路の復習をする				
期末試験	模擬試験		評価方法	受講態度 50% 課題の達成度 40%	筆記試験	10% 0%	
【教科書】 PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野基礎医学 (医歯薬出版)							
【参考書】各領域における1~3年次科目の教科書							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 これまで学んできたことを適宜、復習すること							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】			教員室にて

授業名： 理学療法研究法(2/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4	
PT学科教員	一般	添田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	月 1~5 木 3~5 金 2	【授業形態・単位】	講義・演習 3	
【授業の概要】					【受講して得られる力】		
グループ学習・演習を通して臨床実習に必要な基礎知識および技能を修得する。専門基礎分野、基礎3科目(解剖学・生理学・運動学)の基礎学力向上を図る。					知識・理解 考え抜く力 チームで働く力		
【学習目標(到達目標)】							
①臨床実習に向けた基礎学力の充実を図る。 ②中間試験および期末試験にて70%以上の正答率を獲得する。							
【履修上の注意】		個人の知識に頼らず、記憶したことを他者に伝えることにより学習の理解を深める。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	解剖生理学—動物機能(8)		感覚受容器、感覚器の構造と機能、伝導路の復習をする				
2	運動機能学(1)		骨の構造、関節、靭帯の復習をする				
3	運動機能学(2)		骨の構造、関節、靭帯の復習をする				
4	運動機能学(3)		上下肢の関節、手根管、手部の筋について復習をする				
5	運動機能学(4)		上肢の筋の復習をする				
6	運動機能学(5)		上肢の筋の復習をする				
7	運動機能学(6)		下肢の筋の復習をする				
8	運動機能学(7)		下肢の筋の復習をする				
9	運動機能学(8)		正常歩行について復習をする				
10	理学療法治療学—基本介入手段(1)		運動療法の生理学的作用を理解し、基本的介入手段を実践できる筋力増強運動、他動運動				
11	理学療法治療学—基本介入手段(2)		運動療法の生理学的作用を理解し、基本的介入手段を実践できる関節可動域訓練、伸張訓練				
12	理学療法治療学—基本介入手段(3)		運動療法の生理学的作用を理解し、基本的介入手段を実践できる疾患別運動療法、介入戦略、運動学習				
13	理学療法治療学—基本介入手段(4)		物理療法の使用方法、適応、禁忌等について復習する 温熱療法、低周波療法				
14	理学療法治療学—基本介入手段(5)		日常生活活動と生活環境論について復習する ADL評価、リハ関連機器				
15	理学療法治療学—基本介入手段(6)		補装具療法について復習する KAFO・AFOのチェックアウト				
期末試験	模擬試験		評価方法	受講態度	50%	筆記試験	10%
				課題の達成度	40%		0%
【教科書】 PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野基礎医学 (医歯薬出版)							
【参考書】各領域における1~3年次科目の教科書							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 これまで学んできたことを適宜、復習すること							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】			教員室にて

授業名: 理学療法研究法(3/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4
PT学科教員	一般	添田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	月 1~5 木 3~5 金 2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
グループ学習・演習を通して臨床実習に必要な基礎知識および技能を修得する。専門基礎分野、基礎3科目(解剖学・生理学・運動学)の基礎学力向上を図る。					知識・理解 考え抜く力 チームで働く力	
【学習目標(到達目標)】						
①臨床実習に向けた基礎学力の充実を図る。 ②中間試験および期末試験にて70%以上の正答率を獲得する。						
【履修上の注意】		個人の知識に頼らず、記憶したことを他者に伝えることにより学習の理解を深める。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	障害別PT治療学(1) —骨関節系障害領域		骨関節系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 関節リウマチ、肩関節疾患			
2	障害別PT治療学(2) —骨関節系障害領域		骨関節系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 膝関節・股関節疾患			
3	障害別PT治療学(3) —骨関節系障害領域		骨関節系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 骨折、スポーツ傷害			
4	障害別PT治療学(4) —骨関節系障害領域		骨関節系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 脊椎疾患、小児整形外科疾患			
5	障害別PT治療学(5) —骨関節系障害領域		中枢神経系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 脳血管障害			
6	障害別PT治療学(6) —中枢神経系障害領域		中枢神経系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 脳血管障害			
7	障害別PT治療学(7) —中枢神経系障害領域		中枢神経系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、ALS			
8	障害別PT治療学(8) —中枢神経系障害領域		中枢神経系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 脊髄損傷			
9	障害別PT治療学(9) —中枢神経系障害領域		中枢神経系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 脊髄損傷			
10	障害別PT治療学(10) —神経筋系障害領域		神経筋系障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる ギランバレー症候群、シャルコーマリートゥース病、筋ジストロフィー症			
11	障害別PT治療学(11) —内部障害領域		内部障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 呼吸障害			
12	障害別PT治療学(12) —内部障害領域		内部障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 呼吸障害			
13	障害別PT治療学(13) —内部障害領域		内部障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 循環障害			
14	障害別PT治療学(14) —内部障害領域		内部障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 循環障害			
15	障害別PT治療学(15) —内部障害領域		内部障害領域の評価、基本的介入手段を実践できる 代謝障害、高齢障害、その他の内部障害			
期末試験	模擬試験		評価方法	受講態度 50% 課題の達成度 40%	筆記試験	10% 0%
【教科書】 PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野基礎医学 (医歯薬出版)						
【参考書】各領域における1~3年次科目の教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 これまで学んできたことを適宜、復習すること						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 理学療法マネージメント論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4	
荒木 芳一， 添田 健仁		一般	添田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】				水 1・2	【受講して得られる力】		
評価実習での経験を再検証することで新たな考え方を模索します。生活機能をICFの観点で整理し患者像を把握し、問題点抽出・目標設定を行います。				考え抜く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力			
【学習目標(到達目標)】							
①評価実習の症例を再検証し、新たに患者像把握、問題点抽出、目標設定できる。 ②ボトムアップ・トップダウン双方の考えによる思考の違いを理解し説明できる。 ③現状から目標に向けての道筋を立案できる。							
【履修上の注意】 総合臨床実習に向けて自身の引き上げになるよう臨んでください。							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	オリエンテーション	授業の概要、すすめ方					
2	評価実習の振り返り①	評価実習のレジュメを用いて患者像の振り返りを行います。 評価実習のレジュメを批判的に読み、不足している点を抽出します。					
3	評価実習の振り返り②	患者像の説明を行い、他者から疑問・不足、異なる考え方などを得ます。					
4	評価実習の振り返り③	患者像の説明を行い、他者から疑問・不足、異なる考え方などを得ます。					
5	評価実習の振り返り④	患者像の説明を行い、他者から疑問・不足、異なる考え方などを得ます。					
6	評価実習の振り返り⑤	患者像の説明を行い、他者から疑問・不足、異なる考え方などを得ます。					
7	評価実習の振り返り⑥	他者の意見をもとに評価実習の症例を再検証します。 患者像、問題点、目標					
8	総合臨床実習に向けて①	治療プログラム立案について学びます。 必要な情報収集					
9	総合臨床実習に向けて②	治療プログラム立案について学びます。 必要な情報収集					
10	総合臨床実習に向けて③	治療プログラム立案について学びます。 必要な情報収集					
11	住環境情報と整備①	住環境を考える上で必要な情報とは何かを学びます。 平面図の描き方					
12	住環境以外の背景因子	住環境以外の背景因子にはどのようなものがあるのかを学びます。					
13	ボトムアップとトップダウン思考	これまでの振り返りをもとにボトムアップとトップダウンの思考の違いを学びます。					
14	ボトムアップとトップダウン思考	これまでの振り返りをもとにボトムアップとトップダウンの思考の違いを学びます。					
15	まとめ	まとめ					
期末試験		評価方法	課題の達成度	100%		0%	
				0%		0%	
【教科書】評価実習で作成したレジュメやレポート、ケースノートを使用します。症例報告会資料を持参してください。							
【参考書】参考になるものがあれば、その都度紹介する。							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】これまで学んできたことを適宜、復習すること							
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて				

授業名： 総合演習(1/5)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4
PT学科教員	一般	添田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	75(150)
			【曜日・コマ】	月～金 1～4	【授業形態・単位】	演習 5
【授業の概要】 グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す。						
【履修上の注意】知識の整理のため、グループ学習を最大限に活用すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	基礎医学	解剖学の知識の整理				
2	基礎医学	解剖学の知識の整理				
3	基礎医学	解剖学の知識の整理				
4	基礎医学	解剖学の知識の整理				
5	基礎医学	解剖学の知識の整理				
6	基礎医学	運動学の知識の整理				
7	基礎医学	運動学の知識の整理				
8	基礎医学	運動学の知識の整理				
9	基礎医学	運動学の知識の整理				
10	基礎医学	運動学の知識の整理				
11	基礎医学	生理学の知識の整理				
12	基礎医学	生理学の知識の整理				
13	基礎医学	生理学の知識の整理				
14	基礎医学	生理学の知識の整理				
15	小テスト	基礎医学に関する理解度を確認する。				
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】理学療法士 作業療法士 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 (医歯薬出版)						
【参考書】各分野・領域における1～3年次科目の教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】これまで学んできたことを適宜、復習すること						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】教員室にて			

授業名： 総合演習(2/5)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4
PT学科教員	一般	添田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	75(150)
			【曜日・コマ】	月～金 1～4	【授業形態・単位】	演習 5
【授業の概要】 グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す。						
【履修上の注意】 知識の整理のため、グループ学習を最大限に活用すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	臨床医学		病理学の知識の整理			
2	臨床医学		病理学の知識の整理			
3	臨床医学		内科学の知識の整理			
4	臨床医学		内科学の知識の整理			
5	臨床医学		内科学の知識の整理			
6	臨床医学		整形外科の知識の整理			
7	臨床医学		整形外科の知識の整理			
8	臨床医学		整形外科の知識の整理			
9	臨床医学		神経内科学の知識の整理			
10	臨床医学		神経内科学の知識の整理			
11	臨床医学		神経内科学の知識の整理			
12	臨床医学		臨床心理学の知識の整理			
13	臨床医学		精神医学の知識の整理			
14	臨床医学		リハビリテーション医学、リハビリテーション概論の知識の整理			
15	小テスト		臨床医学に関する理解度を確認する			
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】理学療法士 作業療法士 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 (医歯薬出版)						
【参考書】各分野・領域における1～3年次科目の教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 これまで学んできたことを適宜、復習すること						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 総合演習(3/5)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4
PT学科教員	一般	添田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	75(150)
			【曜日・コマ】	月～金 1～4	【授業形態・単位】	演習 5
【授業の概要】 グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す。						
【履修上の注意】 知識の整理のため、グループ学習を最大限に活用すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	臨床医学		病理学の知識の整理			
2	臨床医学		病理学の知識の整理			
3	臨床医学		内科学の知識の整理			
4	臨床医学		内科学の知識の整理			
5	臨床医学		内科学の知識の整理			
6	臨床医学		整形外科の知識の整理			
7	臨床医学		整形外科の知識の整理			
8	臨床医学		整形外科の知識の整理			
9	臨床医学		神経内科学の知識の整理			
10	臨床医学		神経内科学の知識の整理			
11	臨床医学		神経内科学の知識の整理			
12	臨床医学		臨床心理学の知識の整理			
13	臨床医学		精神医学の知識の整理			
14	臨床医学		リハビリテーション医学、リハビリテーション概論の知識の整理			
15	小テスト		臨床医学に関する理解度を確認する			
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】理学療法士 作業療法士 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 (医歯薬出版)						
【参考書】各分野・領域における1～3年次科目の教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 これまで学んできたことを適宜、復習すること						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて		

授業名: 総合演習(4/5)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4
PT学科教員	一般	添田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	75(150)
			【曜日・コマ】	月～金 1～4	【授業形態・単位】	演習 5
【授業の概要】 グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す。						
【履修上の注意】知識の整理のため、グループ学習を最大限に活用すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	理学療法治療学	骨関節系障害学の知識の生理				
2	理学療法治療学	骨関節系障害学の知識の生理				
3	理学療法治療学	骨関節系障害学の知識の生理				
4	理学療法治療学	骨関節系障害学の知識の生理				
5	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の生理				
6	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の生理				
7	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の生理				
8	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の生理				
9	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の生理				
10	理学療法治療学	神経筋系障害学の知識の生理				
11	理学療法治療学	神経筋系障害学の知識の生理				
12	理学療法治療学	内部障害学の知識の生理				
13	理学療法治療学	内部障害学の知識の生理				
14	理学療法治療学	運動発達障害学の知識の生理				
15	小テスト	理学療法治療学に関する理解度を確認する。				
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】理学療法士 作業療法士 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 (医歯薬出版)						
【参考書】各分野・領域における1～3年次科目の教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】これまで学んできたことを適宜、復習すること						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】教員室にて			

授業名： 総合演習(5/5)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4
PT学科教員	一般	添田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	75(150)
			【曜日・コマ】	月～金 1～4	【授業形態・単位】	演習 5
【授業の概要】 グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す。						
【履修上の注意】知識の整理のため、グループ学習を最大限に活用すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用				
2	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用				
3	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用				
4	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用				
5	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用				
6	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用				
7	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用				
8	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用				
9	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用				
10	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用				
11	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用				
12	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用				
13	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用				
14	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用				
15	小テスト	理学療法治療学に関する理解度を確認する。				
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】理学療法士 作業療法士 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 (医歯薬出版)						
【参考書】各分野・領域における1～3年次科目の教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】これまで学んできたことを適宜、復習すること						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】教員室にて			

授業名: 臨床実習(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4
		添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(630)
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 14
【授業の概要】 実習指導者の指導のもと、学内で修得した知識・技術を活かし、評価から治療、ゴール・プログラムの立案、記録という一連の理学療法を実施する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法の対象者に対して、基本的な理学療法をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における理学療法士の役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の理学療法士としての自覚を向上させることができる					前に踏み出す力 考え抜く力 コミュニケーションスキル 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】		臨床実習Ⅰ期が不合格の場合、臨床実習Ⅱ期に参加できない場合がある。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	病院・診療所における 実習Ⅰ期 (2020年6月1日～ 2020年7月24日)	1)実習指導者の助言・指導のもと、評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案・実施を行い、正確に記録し、他者にわかりやすく伝えることができる 2)理学療法の対象者、指導者、職員、すべての人へ謙虚な心を持ちながら対応し、チームの一員として良い人間関係を築くことができる 3)指導者の助言・指導や文献をもとに、理学療法士としての知識・技術の向上を図ることができる				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	学内症例報告会	評価方法	実習評価	80%		0%
			発表会の結果	20%		0%
【教科書】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名: 臨床実習(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	4
		添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(630)
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 14
【授業の概要】 実習指導者の指導のもと、学内で修得した知識・技術を活かし、評価から治療、ゴール・プログラムの立案、記録という一連の理学療法を実施する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法の対象者に対して、基本的な理学療法をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における理学療法士の役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の理学療法士としての自覚を向上させることができる					前に踏み出す力 考え抜く力 コミュニケーションスキル 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】 実習生、医療・介護・福祉に携わる職業人を目指すものとして責任ある行動をとる。提出物の期限・施設の規則を厳守。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	病院・診療所における 実習Ⅱ期 (2020年9月7日～ 2020年10月30日)	1)実習指導者の助言・指導のもと、評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案・実施を行い、正確に記録し、他者にわかりやすく伝えることができる 2)理学療法の対象者、指導者、職員、すべての人へ謙虚な心を持ちながら応対し、チームの一員として良い人間関係を築くことができる 3)指導者の助言・指導や文献をもとに、理学療法士としての知識・技術の向上を図ることができる 4)臨床実習を通して、常に積極的な態度・向上心を持ち、生涯学習の態度を身につけることができる				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	学内症例報告会	評価方法	実習評価	80%		0%
			発表会の結果	20%		0%
【教科書】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		学科教員	【質問方法】 教員室にて			